



世界にひろがるAMDAのネットワーク

パキスタン・インド北部洪水 被災者に対する緊急医療支援活動

モンスーンの豪雨による大規模な洪水が発生しているインド、パキスタン北部の国境付近カシミール地方にむけて、AMDAでは9日医療支援活動を決定。17日にはAMDA岩本看護師がパキスタンに向けて日本を出发し、パキスタンの現地協力機関NRSP（※1）とともに被災地での活動支援を実施。さらに、25日にはAMD A山崎看護師がインドに向けて出発する。インドでは、現地協力機関パンニャ・メッタ・サンガ（※2）とともに被災地での活動を行う予定。

【パキスタンで活動中のAMDA岩本看護師からの活動報告】

17日にパキスタン、イスラマバード入りしたAMDA看護師は、被災地のほぼ全土で活動を展開する地元NGO・NRSPと合流し、打ち合わせを行った。パキスタン北部を流れるジェラム川（Jhelum R）とチェナップ川（Chenab R）の2本の川が氾濫したため、洪水被災地は広域にわたり、さらに被災地域が徐々に上流域から下流域に移動している。

19日、ブンジャップ州ジェラム（Jhelum）県ピンダダカン（Pind Dadan Khan）郡ハランプア（Haran Pur）町を視察。洪水発生から2週間近くたった現在も、水が残っている地域があり、食糧などの支援を受けるためには、膝の高さまである水の中を渡ってこないといけない家庭も見られた。

20日には、ブンジャップ州ハフィザバッド（Hafizabad）県ジャランプール バティアン（Jalalpur Battian）郡チャック バティ（Chack Bhatti）町ナロワール（Narowal）村、21日には、ブンジャップ州チニョット（Chiniot）D県サンバル（Sambal）郡でのNRSP無料巡回診療に合流。もともと、医師が少ない地域であるため、医療ニーズが非常に高かった。巡回診療には地元医師、看護師らが参加し、2日間の活動を通してのべ710人を診療することができた。洪水後に乾燥した砂が舞う状況があるため上気道感染症の症状を訴える人が多数おり、小児患者では下痢の症状を訴えるケースが多くみられた。

また、いずれの地域も、収穫直前であったとうもろこし、小麦、米、綿、サトウキビなどが浸水しており農作物の被害は大きい。また、家畜の餌も洪水の被害にあい、被災しなかった地域からの支援も受けているが、十分ではない。家は、レンガ造りの家は、水が引いて壁が乾いてくるにつれてひびが入り、損傷している。また泥造りの家が多い地域では、ほとんどの家屋が全壊していた。

この状況を受け、アムダは、テントとして使用できるブルーシートと医薬品に対して支援を実施。今後も、洪水被害がさらに下流地域に広がる可能性があるため、NRSPと情報を共有しながら、追加支援を検討していく。

■派遣者 プロフィール

山崎 希（やまざきのぞみ）：AMDA国際部 プロジェクトオフィサー／看護師／岡山県在住
岩本 智子（いわもとともこ）：AMDA国際部 プロジェクトオフィサー／看護師（米国資格）／岡山県在住

■現地協力団体 NRSP：National Rural Support Programme

1991年設立、パキスタン・イスラマバードに本部をおくNPO。活動は、パキスタン全土の54の地域に広がる。2010年夏に発生したパキスタン大洪水でも救援活動を協働し、以降パキスタン南西地震緊急医療支援活動、パキスタン家庭健康教育プログラムでも協働している。なお2013年4月に岡山でAMDAが開催したアジア相互扶助災害医療ネットワーク会議にも参加し、ネットワーク構成メンバーでもある。

■現地協力団体 パンニャ・メッタ・サンガ

1982年にインド政府から認定されたインドの宗教法人。現在、パンニャ・メッタ・サンガ、天台宗一隅を照らす運動総本部、AMDAの3者合同で、インドナグプール県での無料白内障手術事業を実施している。

【皆様からの募金を受け付けております】

■郵便振替：口座番号01250-2-40709 口座名「特定非営利活動法人アムダ」

【お問い合わせ】AMDAボランティアセンター

〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1 TEL：086-252-7700 FAX：086-252-7717

E-mail：member@amda.or.jp <http://www.amda.or.jp>